

**みんなで作ろう！
セーフコミュニティちちぶ**

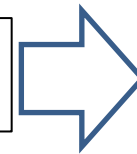
**自然の中での安全対策委員会
活動報告**



**発表者：委員長 坪内幸次
所 属：秩父観光協会**

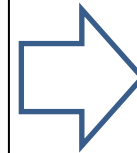
自然の中での対策委員会設置の背景

背景1 山岳遭難事故が多発している。



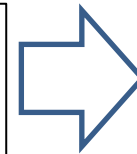
図①、②
表①

背景2 余暇・アウトドアレジャー・スポーツ中の事故に不安を感じている人が多い。



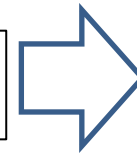
図②

背景3 農林作業中に事故やケガをする人が多い。



表①、図③

背景4 サイクリング中の事故が発生している。



表①



秩父市の特徴である「自然」の中での受傷

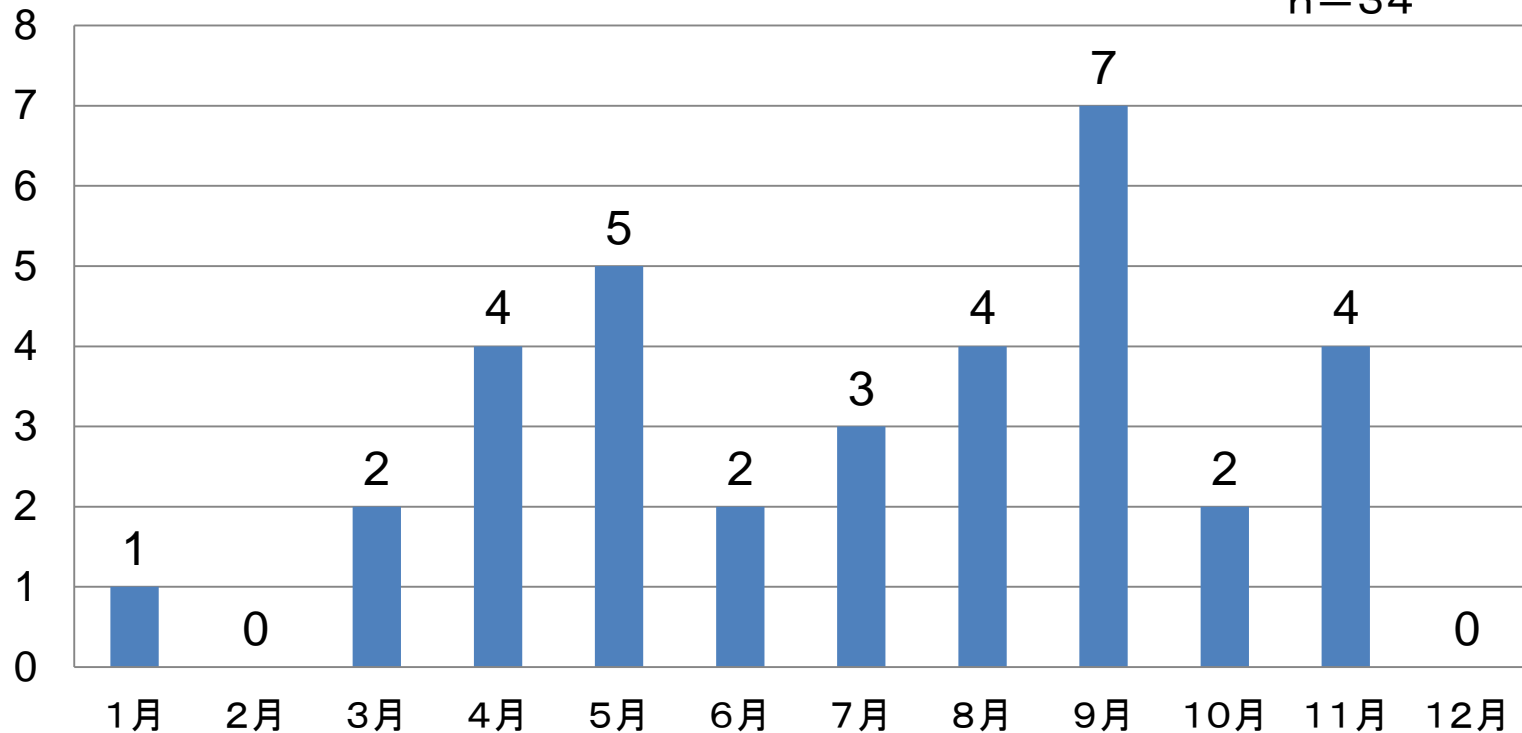
背景1 山岳遭難事故が多発

秩父市では、毎年多くの山岳遭難事故が発生しています。2012年には、年間で34件の遭難者がありました。

図1

山岳遭難者数(2012年)

n=34



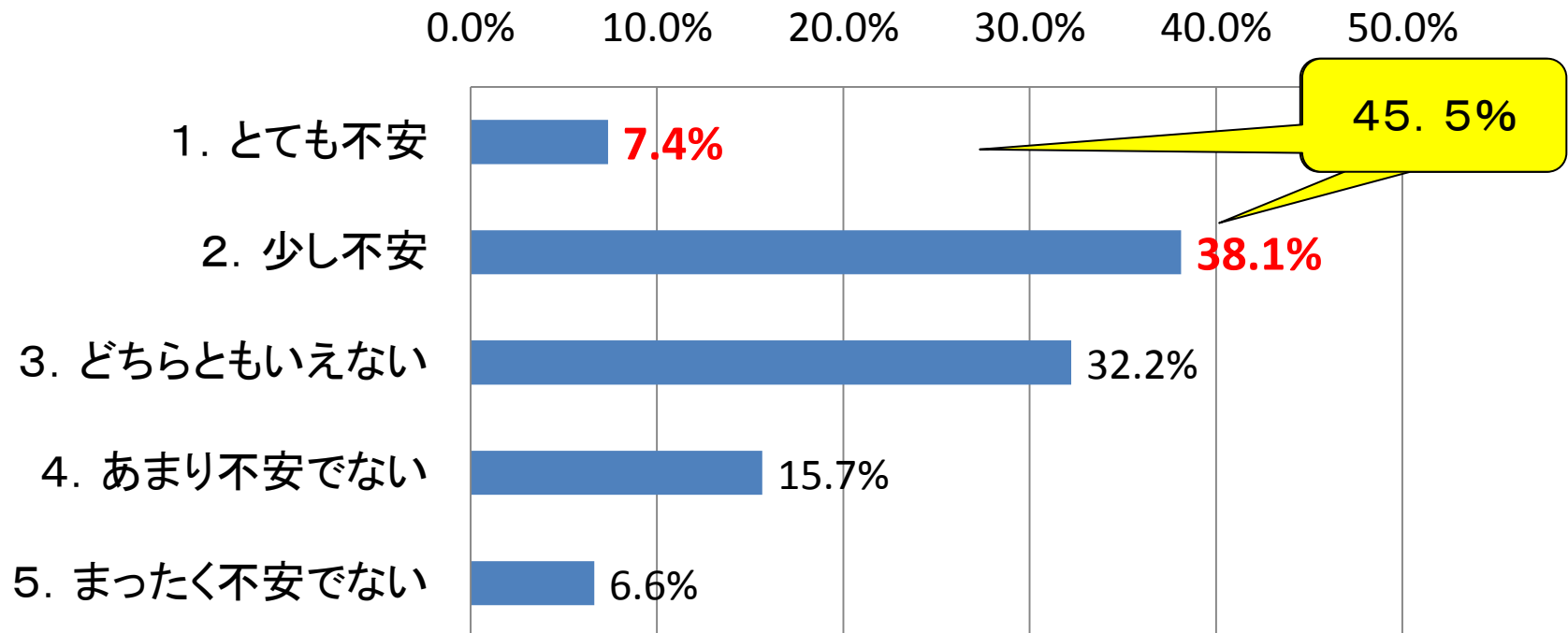
出典:秩父警察署山岳遭難データ(2012年)

背景2 アウトドアレジャーでのケガへの不安

市民の約半数(45.5%)は、余暇・スポーツ・アウトドアレジャーでの事故に対して不安を感じています。

図2

余暇・スポーツ・アウトドアレジャーでの事故に対する不安(n=1,086)



背景3 自然の中での受傷機会

登山のほか、「芝桜の丘」や「ミューズパーク※」などの公園でのケガも多くなっています。また、サイクリングでのケガも多く発生しています。いずれも秩父市外からの人のケガが多い状況です。

表1 <自然の中での外傷の状況>

場 合	件 数	備 考
登山・ハイキング	56	うち市外の方は51件
サイクリング	31	うち市外の方は25件
公園内	21	芝桜の丘、ミューズパークも含む
農作業中	18	うち13件が機械取扱い中
河原・沢	21	うち釣りが10件
山菜取り	6	
キャンプ	3	

出典：秩父消防本部救急搬送データ(2008年～2012年)

※「ミューズパーク」は、埼玉県と秩父市が管理する広さ約270haの公園で、プール、テニスコート、サイクリングコース、音楽ホール、宿泊施設などを備えています。

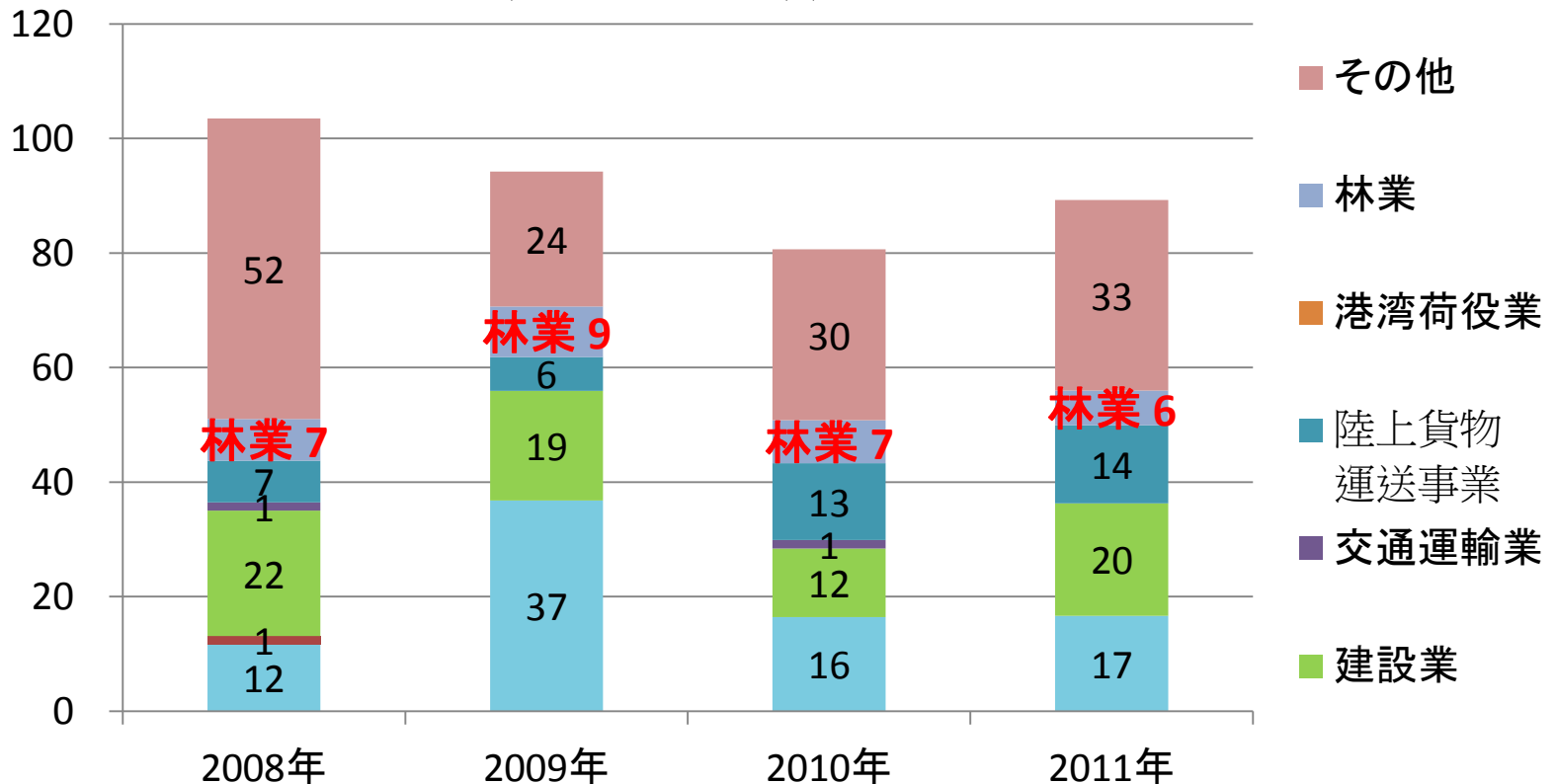
背景4 林業における事故

国の値に比べて林業作業中のケガが多く発生していることがわかります。
 ※国の林業における労働災害発生率は「2件／10万人」です（2008年～2011年の平均値）

図3

1人/10万人

労働災害発生状況
 (10万人当たり)



自然の中での安全対策委員会の構成

区分	団体・組織名	委員数
住民組織等 (6人)	町会長協議会	1名
	民生委員・児童委員協議会	1名
	農協	1名
	観光協会	1名
	体育協会	1名
	青少年育成協議会	1名
行政機関 (7人)	警察	1名
	消防	1名
	秩父市(森づくり課、農政課、市民スポーツ課、 観光課、公募職員)	5名

自然の中での安全対策委員会の経過

回数	開催日	主な会議内容
第1回	2013年 8月19日	セーフコミュニティの概要説明
第2回	2013年 9月27日	第1回ワークショップ(主観的な課題)
第3回	2013年10月31日	第2回ワークショップ(データから見る課題)
第4回	2013年12月17日	重点課題の選定、方向性の検討
第5回	2014年 1月22日	重点課題の選定、方向性の検討、対象の設定、取組みの議論
第6回	2014年 3月25日	重点課題に対する取組みの検討

対策委員会における地域診断結果

【ワークショップによる主観的な意見】

- ・地図を持たずに山に入る人がいる。
- ・アウトドアレジャーに適した服装をしていない。
- ・草刈り機が危ない。
- ・ミューズパークの歩道は滑る。
- ・夜間運動している人で黒い服の人が意外に多い
- ・有害鳥獣による被害が多い。
- ・動物が道に飛び出してきて危ない

【データからみた客観的な危険】

- ・山岳遭難事故が多い。
- ・山岳遭難は、男性・中高年が多い。
- ・ハチ刺されが多い。
- ・ハチ刺されは、9月が多く、集団で刺される事故もある。
- ・農業機械でケガをする人が多い。
- ・立木伐採時の事故が多い。
- ・サイクリングでのケガが発生している。
- ・ミューズパーク周辺での事故が多い。

表2、図①・②・④

図⑤・⑥

図⑥

図⑥

表1・2、図⑦

表1・2、図③

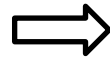
表1・2、図⑨

図⑨

地域診断① ワークショップでの検討



各委員が数多くの意見を出し合いました。



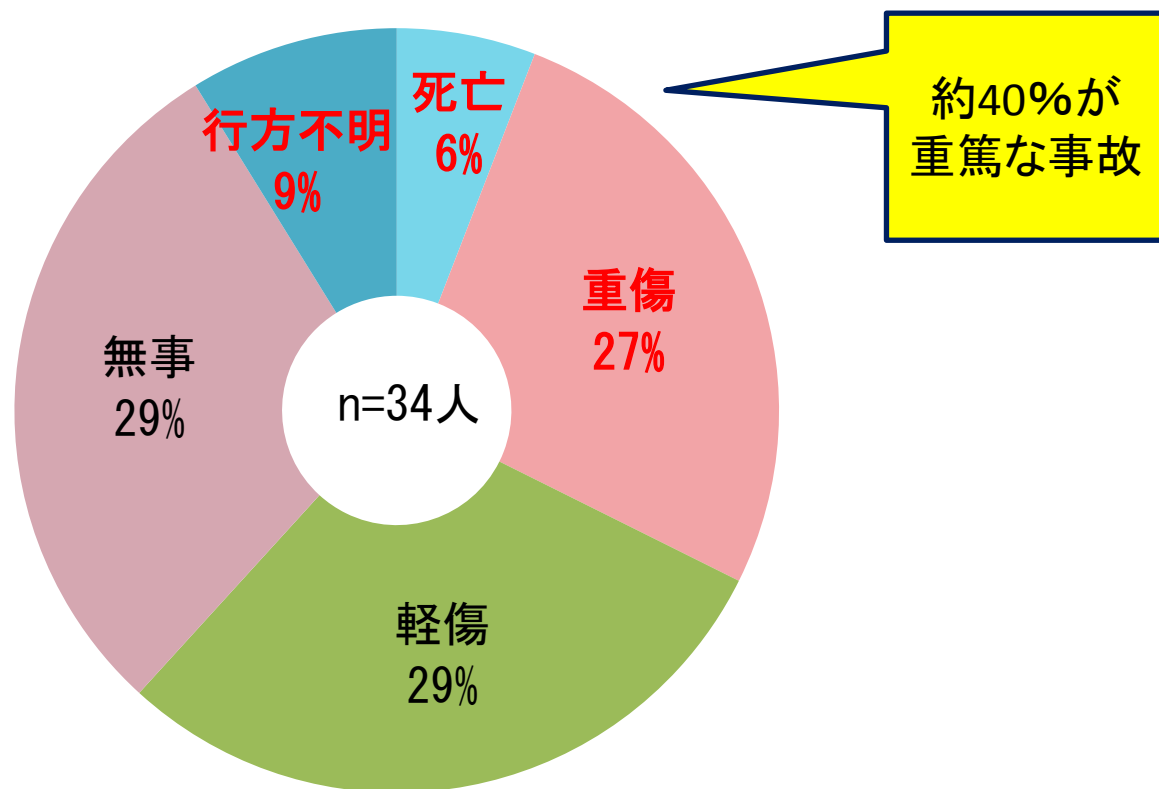
ワークショップでの検討事項を他の委員会の皆さんに発表し、情報共有しました。

地域診断② データから見た客観的な危険(1)

遭難者の負傷程度をみると、「死亡者」、「重傷者」、「行方不明者」の割合が4割以上を占めており、重篤な事故に至るケースが多い。

図4

負傷程度別山岳遭難件数 (2012年)

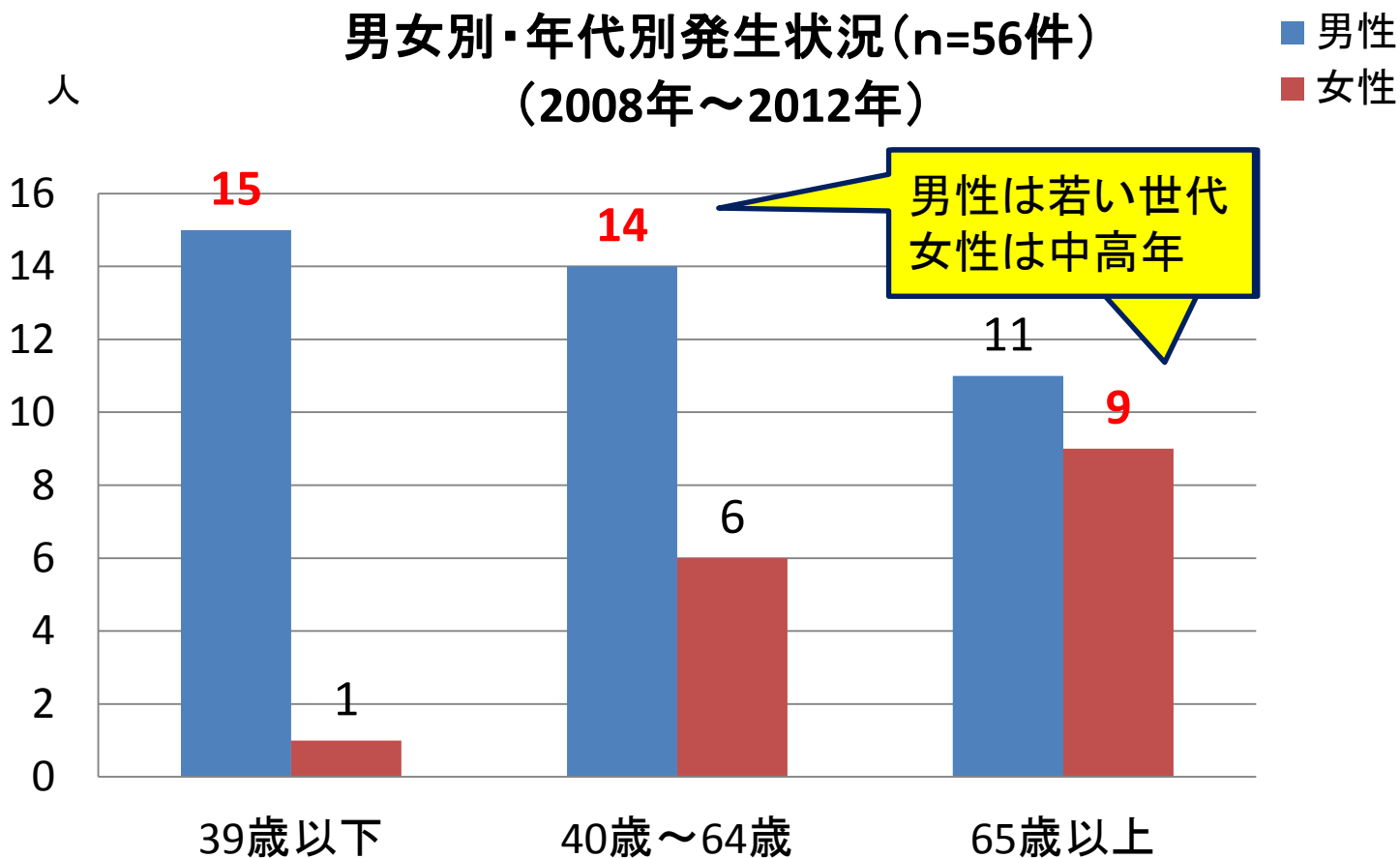


出典: 埼玉県警察山岳遭難データ

データから見た客観的な危険(2)

山岳遭難の男女別の内訳をみると、男性の割合が高い(約70%)。男性は、若い世代が多く、女性は中高年になるほど事故に遭う人が多い。

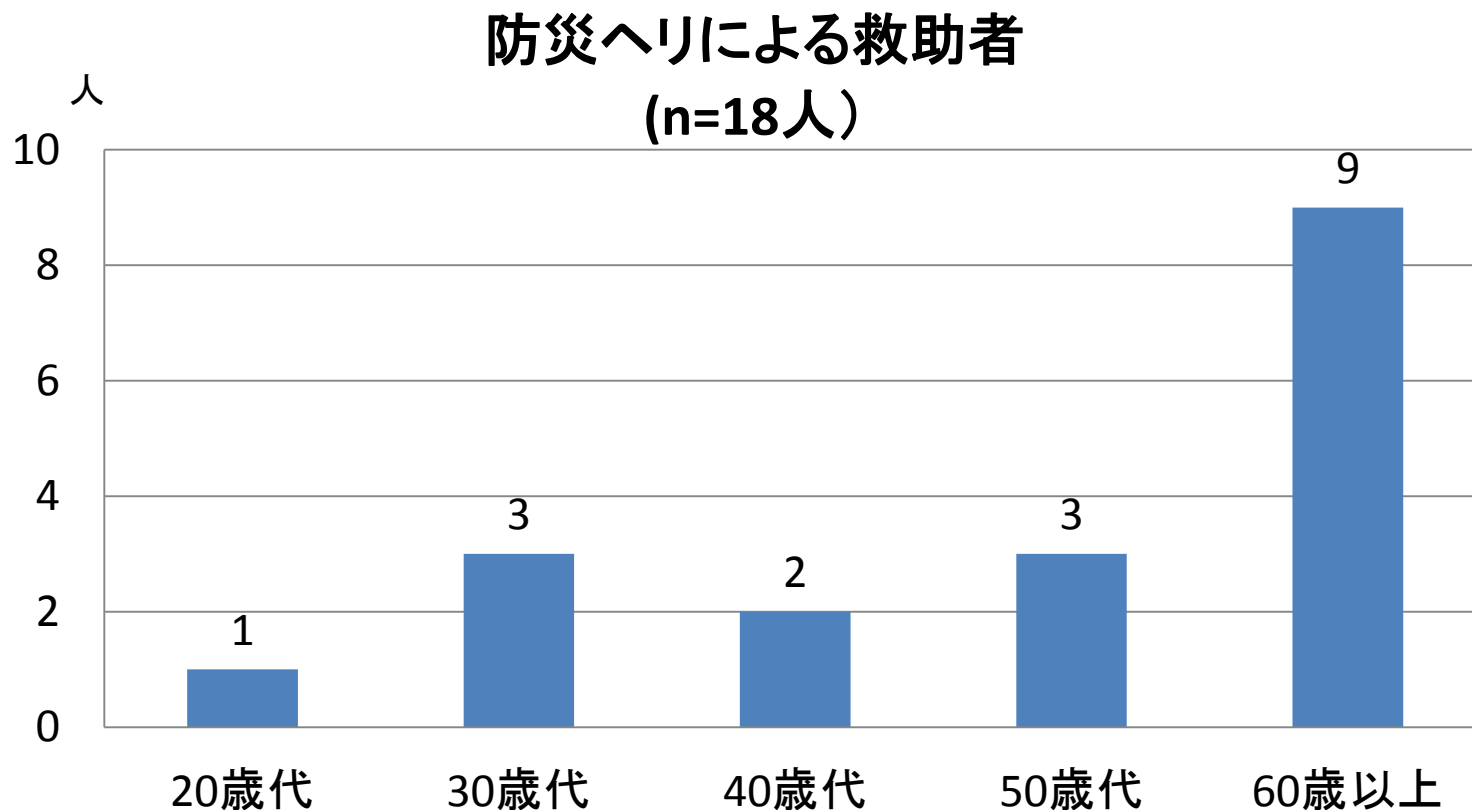
図5



データから見た客観的な危険(3)

2012年は、年間で18人が救助されている。
このうち8人は、県外からの登山客。

図6

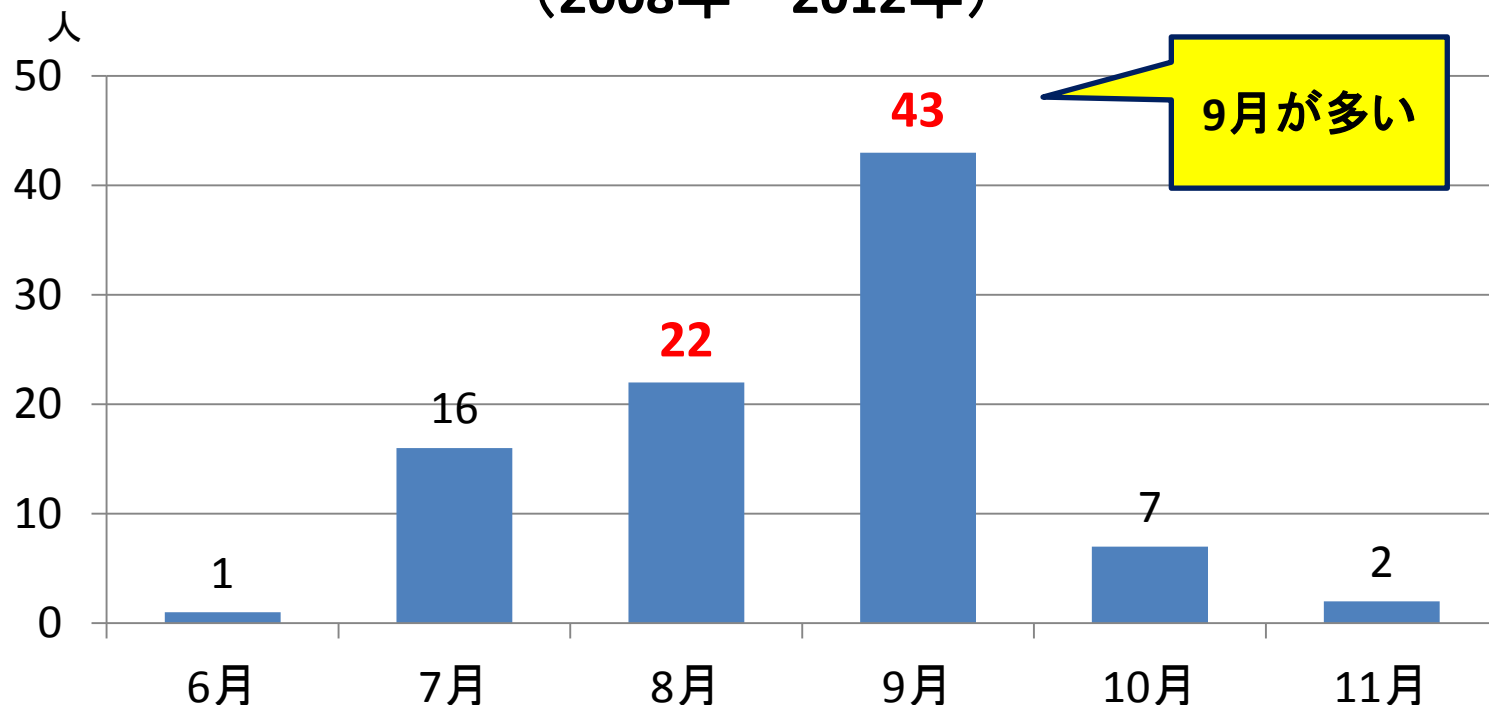


データから見た客観的な危険(4)

- ・ハチ刺され事故が数多く発生している。
- ・夏～秋にかけての発生が多く、特に9月に集中している。

図7

ハチ刺されによる搬送件数(n=90)
(2008年～2012年)

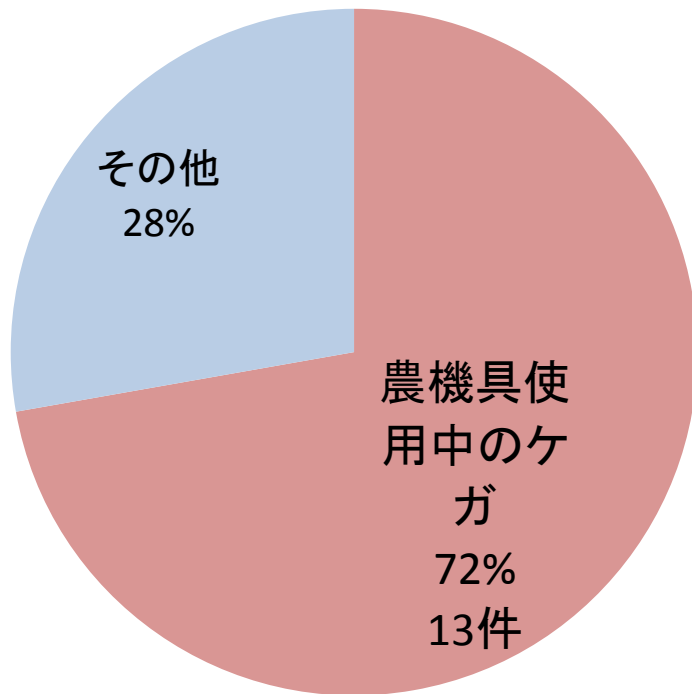


データから見た客観的な危険(5)

- ・「農業用機械の使用」中の受傷が4人に3人。
- ・13件中、11件は、「挟まれ・巻き込まれ」による受傷。

図8

農機具使用中のケガ(n=18)



ケガの分類	件数	ケガの度合い
挟まれ・巻き込まれ	11	死亡1件 重傷2件 中傷4件 軽傷4件

データから見た客観的な危険(6)

林業従事者では、倒木との衝突による骨折(7件)、チェーンソーなどの機具による創傷(6件)が多い。いずれも、伐採作業中の事故。

表2

林業における労働災害発生状況
(2008年～2011年) (n=20)

受傷の要因	件数	ケガの種類
倒木との激突	7	すべて骨折
立木からの落下・接触	2	すべて骨折
チェーンソー等への接触	6	すべて創傷
その他	5	
計	20	

※2008年～2011年の労働災害発生件数は、248件

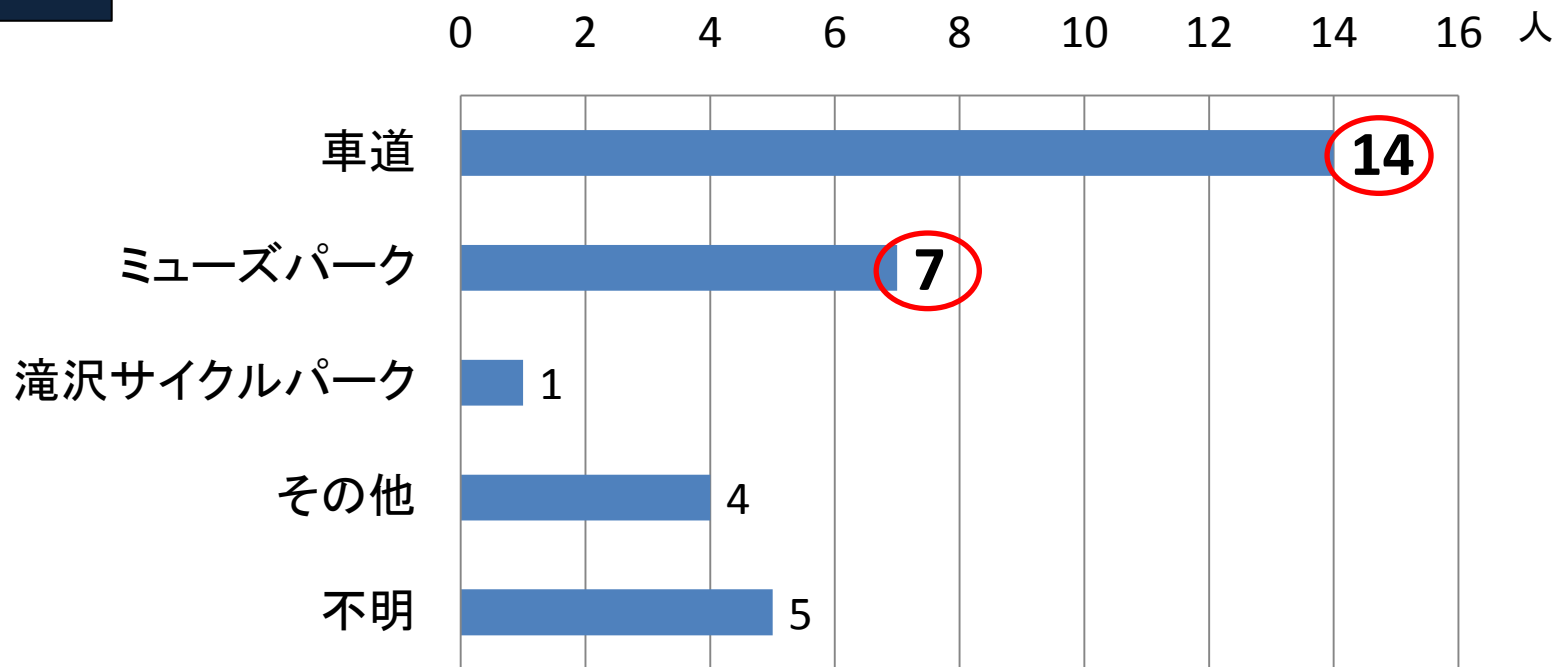
出典：秩父労働基準監督署労働災害データ

データから見た客観的な危険(7)

- ・サイクリング中におけるケガは31件あった。
- 「車道」での事故が最も多く14件、次いで「ミュージックパーク内」が7件。

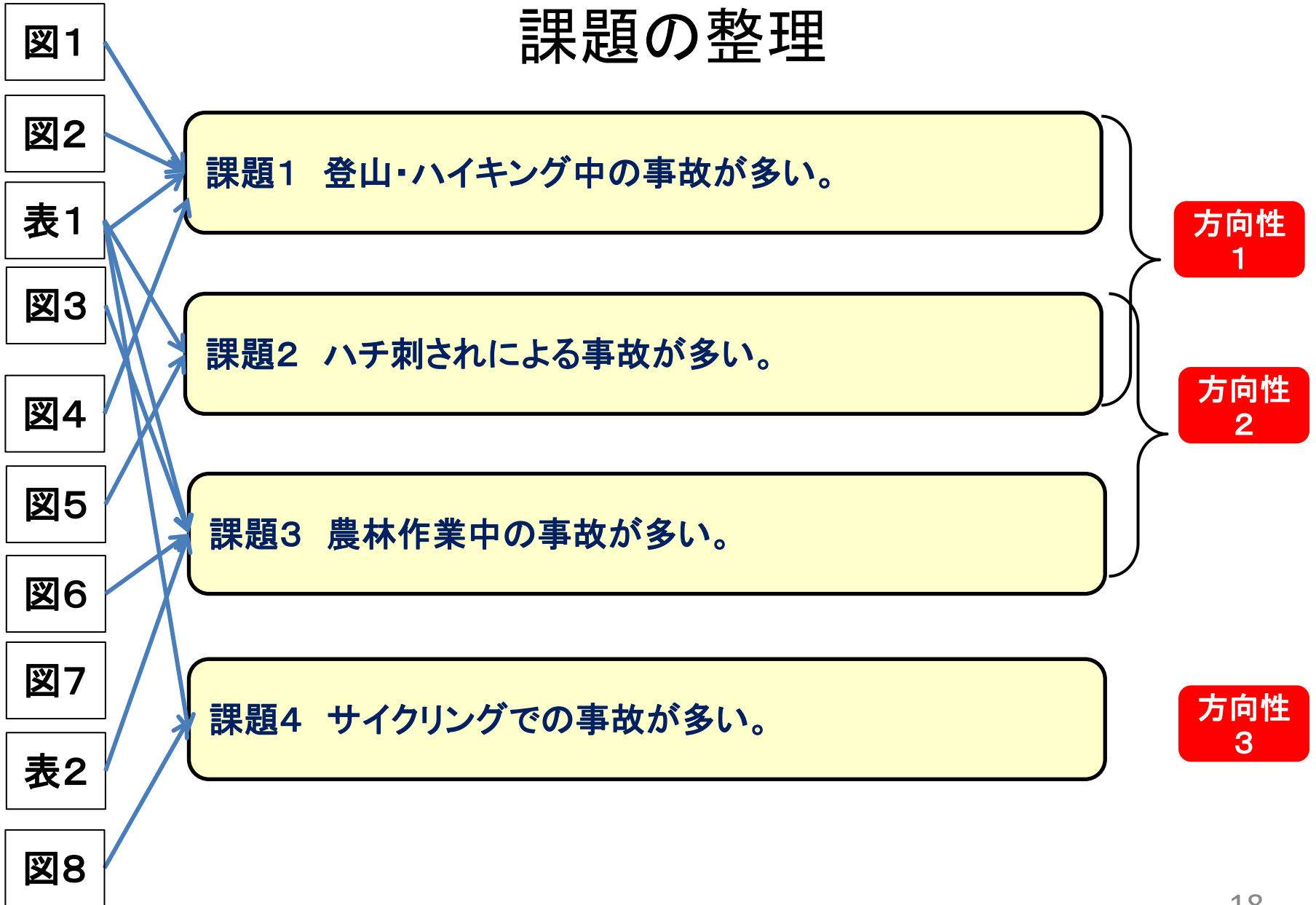
図9

サイクリング中のケガ(n=31)

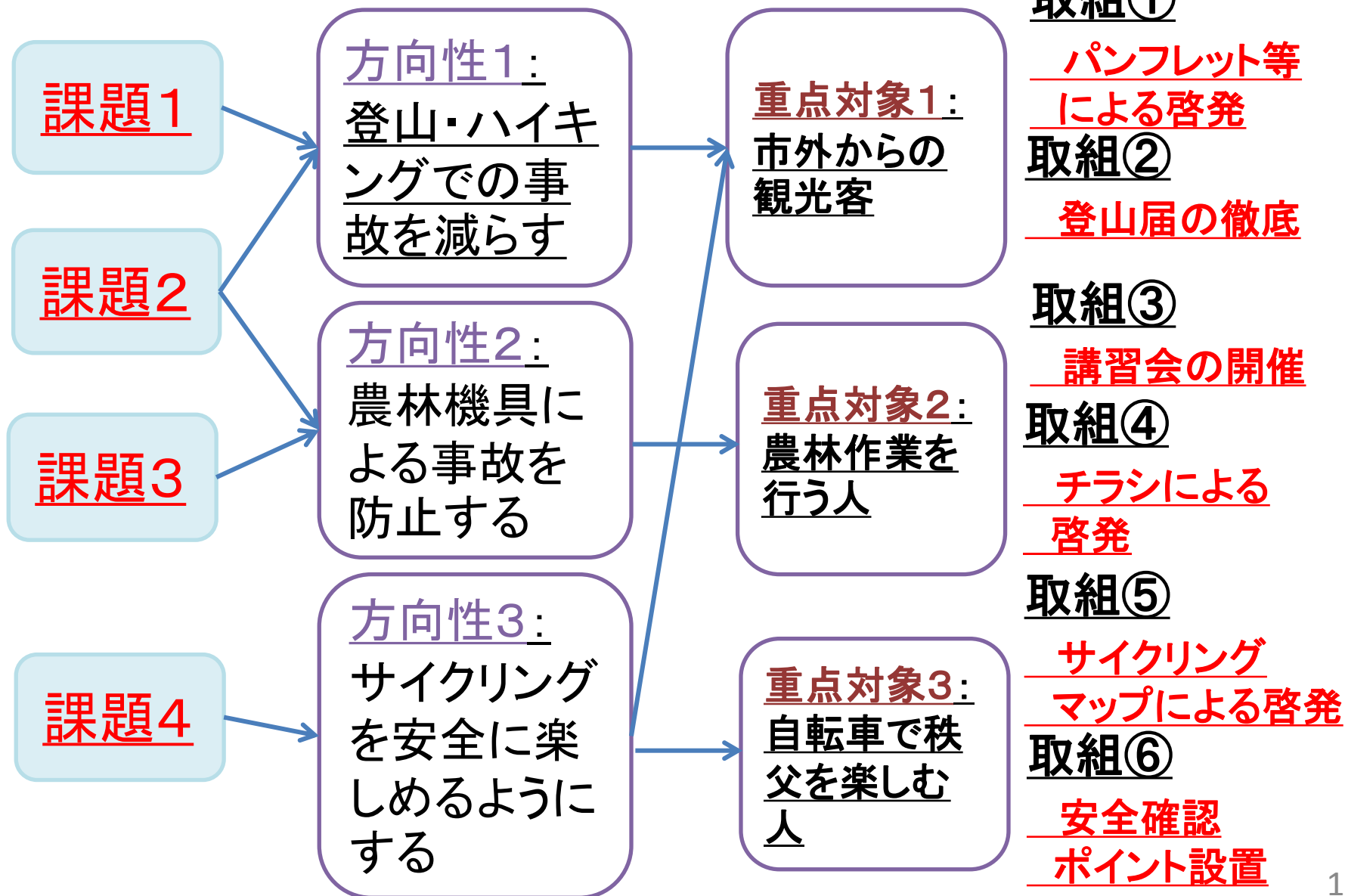


※2008年～2012年の自転車の外傷件数は、259件

課題の整理



課題、方向性、重点対象、取組の整理 (前回までのもの)



登山・ハイキングでの事故を減らす

新規

- 取組み① 主体：観光協会、警察、消防、県、市
「パンフレット等による啓発」

最低限の登山
知識を啓発

対象：秩父に登山・ハイキング目的で訪れる観光客

内容：①登山の危険性や装備・携行品等について注意を促す
パンフレットを配布
②ホームページに掲載
③何も知らずに当日訪れてしまった人には、駅前等で
啓発。

○事前用 ⇒ ホームページ等で周知

○当日用 ⇒ 駅前等で掲示やチラシの配布

SCでの気づき→

管理者が不在（警察・消防・市などが連携）

登山・ハイキングでの事故を減らす

改善

- 取組み② 主体：警察、県、市など
「登山届の徹底」

登山届を
徹底させる！

登山する人には、必ず「入山届」を提出してもらうよう呼びかける。

○駅前、登山口などに登山箱を設置

○携帯電話等の活用

SCでの気づき→

①登山箱がどこにあるかわかりにくい

②入山届のQRコードを観光パンフレットに記載



登山箱

農林機具による事故を防止する

新規

・取組み③

主体：農協、市など

「安全講習会の実施」

地元で
講習会開催

農機具等は、業務以外で使用する場合、講習を受けなくても使えてしまう。安全講習を受けることで、事故を減らす。

○安全講習を地元で開催する

農業協同組合、森林組合等に協力依頼して、地元で安全講習会を開催する。

SCでの気づき→

熊谷市まで行かないと講習を受けられない。

農林機具による事故を防止する

新規

• 取組み④

主体：市など

「チラシの配布」

手軽に買う人に注意を！

趣味で農作業をする人やボランティアで間伐を行う人もいる。また、草刈り機などの簡易な機具は簡単に使えるが危険もある。

○ホームセンターでのチラシ配布

初心者が機具を購入しやすいホームセンター等で機械使用の注意事項を配布する。

SCでの気づき→

簡単に使えると思って購入する人が多い
(危険性を知らない)

サイクリングを安全に楽しめるようにする

改善

- 取組み⑤ 主体：自転車団体、警察、県、市など

危険個所を周知

「サイクリングマップの活用」

既存のサイクリングマップに、危険個所等を記載して、サイクリストに注意を促す

○サイクリングマップ

サイクリングマップに、事故発生箇所等を記載して配布する。

※詳細は、検討中

サイクリングを安全に楽しめるようにする

改善

- 取組み⑥ 主体：県、市など

「安全確認ポイントの設置」

安全点検の励行

市内の道の駅に安全ポイント(空気入れ、パンク補修材等の設備)を設置 → 4か所

○市内の道の駅等に空気入れを設置

市内にある「道の駅」(4か所)を安全確認ポイントとする。(空気入れ・パンク修理キットは配備済)

※詳細は、検討中

現時点での問題点・困難な点

1. 取組み①

<対象者が観光客>

- ・市外からの登山客に有効な伝達方法はあるか？

<登山は自己責任が原則>

- ・登山道の管理は誰がすべきことなのか？
- ・登山中の事故は、そもそも自己責任である

<データ不足>

- ・どの山で山岳遭難が発生しているのか？

2. 取組み⑤

<対象者が観光客>

- ・市外からの観光客に有効な伝達方法はあるか？

3. 今後の方向性

成果の指標については、今後検討します。



ありがとうございました！